

ユダヤ人が買い漁っている地域は、原油の埋蔵が期待される油田地帯である。気がついてみれば、クルド地区は、ユダヤ系米国人に買収され、その天然資源は、米国のユダヤ系石油資本の独占するものとなる。

参考サイト

■米とイスラエルがイラクに新ユダヤ国家建設を計画

[http://homepage.mac.com/ehara.geni/jealous.gay/mustafa\\_bakry.html](http://homepage.mac.com/ehara.geni/jealous.gay/mustafa_bakry.html)

石油は、支配の道具である。石油を供給する側は、石油を消費する側の殺生与奪の権を握ってしまう。石油がなければ死んでしまう石油消費者は、石油を売ってくれるユダヤ人の石油メジャーに隷属するしかない。それを熟知しているウォール街のユダヤ人たちは、とにかく、地球上の石油資源をなにがなんでも確保しようとする。石油を掘るかどうかは問題ではない。取り合えず武力で資源のある地域を強奪し、掘らないで温存しておいて、他者の自由に出来ないようにすることも、石油で他者を支配する手段である。

32

アフガニスタンは産油国ではない。だが、世界で支配力を行使したい勢力にとって、極めて重大な、地政学的な意味のある地域である。そもそも、ソ連がアフガニスタンに傀儡政権を作ったのも、中央アジアの原油をアフガニスタン経由でインド洋に運び出すのが目的だった。インド洋に運び出した原油は、日本を始めとするアジアの大市場に買わせることが出来る。日本は、昔から原油を売り手に有利な条件で買ってくれる世界の上客である。米国を支配するウォール街のユダヤ金融資本・石油メジャーにしてみれば、ソ連の行為を看過するわけには行かない。アジアの諸国家への支配力を奪われてしまう。そこで、ユダヤ権力は、アフガンのムジャヒディンに肩入れして、ソ連をアフガンから追い出した。この場面で、ユダヤ権力のためにソ連追い出しに活躍したのが、オサマ・ビン・ラディンである。そして、今度は、911を口実にアフガンに米軍を送り込んだ。以後、ユダヤ石油資本、ユノカルなどが、パイプライン建設に着手したとの情報がある。だが、アフガンにパイプラインが

今すぐ必要なわけではない。ユダヤ石油資本は、中央アジアやコーカサスの石油をアジア向けに出荷させないために、アフガンを支配しているのかもしれない。アフガンにでんと座り込んで、「お前ら、石油は一滴たりとも運ばせないぞ」と凄みをきかせているのかもしれない。(スターリン以降、ソ連という国家が、ユダヤ支配から脱却した経緯については、別の機会に論じたい。)

また、米国ユダヤ権力が次の侵略先としてノミネットしていると思われるのが、ベネズエラである。ベネズエラもまた、有力な産油国である。ロックフェラー石油帝国の主要メンバーであるニコラス・ロックフェラーは、911の11ヶ月前に、911とそれに続くイラク、アフガンの侵略を予言していたが、彼がその次の侵略先として明言したのが、ベネズエラであったという。911首謀者の一族の人物が言うことである。間違いなさそうだ。ロックフェラーはベネズエラの石油を略奪するための戦争をも捏造する。チャベス大統領を倒して、ベネズエラの原油決済がドルからユーロに切り替えられるのを阻止するであろう。

小泉の靖国参拝もまた、ユダヤ石油資本の石油戦略に大いに役立っている。靖国参拝で、日中関係はわるくなり、二国間の対話が中断する。首脳会談すら開けない。陰悪なムードで協力関係など築けそうにない。日中間に横たわる東シナ海の大陸棚には、膨大な海底油田が眠っている。東シナ海に眠る石油は、推定七十二億トンもあり、北海油田に匹敵するという。沖縄の近海がその海域だ。

33

この海底油田を日中が開発すれば、エネルギー自給が、部分的にでも実現するかもしれない。エクソン・モービルから買う原油を減らすことができる。それでは、ロックフェラーが困る。だから、小泉が靖国参拝を強行する。中国首脳も中国大衆も怒る。いっぽうで、中国側では、ロックフェラーと繋がった江沢民一派が、尖閣諸島問題で反日を煽る。暴徒が上海で日本料理屋に投石する。日本で思慮の浅い若者が中国をなじむ。かくして、日中間の反目は続き、海底油田の「共同開発」の話など進めようがない。首脳会談すら開けない。日中が対立したまま、海底の資源はどちらも手がつけられないまま放置される。中国が開発を強行すれば、軍事衝突すらおこりうる。中国も北京オリンピックを控えて、戦争行為はどうしても避けたい。だから、互いに様子を窺って、手を出せない。結果、ロックフェラー・ユダヤ権力による、エネルギー安全保障

を使った日中支配が継続する。靖国参拝、尖閣問題などの日中間の軋轢の背後には、常に、ユダヤ権力の極東代理人、文鮮明がいる。ユダヤ権力の手先である朝鮮半島系の宗教が、日本の右翼を偽装して、日中離反を煽っているのである。

参考サイト

■自作自演テロの目的は、①中央アジア石油利権の確保

[http://www15.ocn.ne.jp/~oyakodon/kok\\_website/fireworks4/main\\_pages\\_sub/OUJUNOSEIRSETON/PAGE8\\_23\\_01.HTM](http://www15.ocn.ne.jp/~oyakodon/kok_website/fireworks4/main_pages_sub/OUJUNOSEIRSETON/PAGE8_23_01.HTM)

### ●軍産複合体

米国の軍産複合体といえば、ロッキード、ボーイング、レイセオン、ゼネラルダイナミクス、グラマン、GE、ユナイテッド・テクノロジ、テキシトロン、TRW、といった会社である。さらには、チェニー副大統領が経営していたハリバートンや、ラムズフィールドのランド・コーポレーションもまた、軍産複合体とみなしてよいであろう。これらの人を殺す道具を作る会社は、どれもこれもユダヤ人の持ち物である。そしてその産業の頂点に君臨するのが、やはり、毎度おなじみのデービッド・ロックフェラーである。

軍産複合体は、ベトナム戦争で大きく成長したが、以後の冷戦終結で、市場を失った。疲弊して再編を繰り返す、湾岸戦争で少し息を吹き返した。そして、アフガン戦争、イラク戦争で順調に業績を回復し、特にイラク戦争では、ベトナム戦争時代に匹敵する巨大なビジネスを確保した。ロックフェラー家の番頭であるブッシュは、侵略戦争の遂行で、ユダヤ軍産複合体の隆盛に大いに貢献したのである。2005年には、イラクでの作戦費用は毎月平均五十六億ドルに達し、ベトナム戦争当時の平均作戦費用月額五十一億ドル(貨幣価値換算額)を上回っていた。このまま推移すると、ベトナム戦争の総費用、6000億ドル(貨幣価値換算後)をはるかに超えて、一兆ドルに達するという。おかげで、米国は、財政赤字に苦しんでいるが、戦費の大きな部分が、ユダヤ軍産複合体のふところに入っているのである。

もうひとり、ユダヤの人殺し産業の繁栄に貢献した人物を忘れてはならない。金正日である。統一教会の文鮮明から資金援助され、ミサイル開発につき込んだ金正日は、テポドンやノドンを開発して、日本海に叩き込んだ。世界は核攻撃の危機に怯えた。おかげで、ブッシュ政権がMD計画に無駄に税金をつぎ込むことが認められ、日本でもMD計画に巨額の無駄カネが注がれることが是認された。金正日様のおかげで、ロッキード・マーチンやレイセオンやランド・コーポレーションはわが世の春を謳歌しているのである。背後で高笑いしているのは、勿論、我等がアイドル、デービッド・ロックフェラー翁である。北朝鮮の金王朝とブッシュ政権が対立しているなどといった話は、表向きのジェスチャーに過ぎない。ブッシュは、文鮮明を通じて、いつでも金正日と意志の疎通が出来るチャンネルを持っている。世界は、ブッシュと金正日に騙され続けてきたのである。テポドンの発射ボタンは、ニューヨークのユダヤ老人が押すのである。詳しくは後述する。

参考サイト

■自作自演テロの目的は、③軍産複合体の利益

[http://www15.ocn.ne.jp/~oyakodon/kok\\_website/fireworks4/main\\_pages\\_sub/OUJUNOSEIRSETON/PAGE8\\_25\\_1.HTM](http://www15.ocn.ne.jp/~oyakodon/kok_website/fireworks4/main_pages_sub/OUJUNOSEIRSETON/PAGE8_25_1.HTM)

### ●金融犯罪の隠蔽

WTCとペンタゴンはなぜ攻撃されたのか？ビン・ラディンに聞いてみようか？ いや、ビン・ラディンは、実行犯ではないし、計画にも関与していないであろう。よって、真相を知りたいと思われる。もっとも、CIAから、事後報告は受けていたろうが。彼の役割はやっていない犯行を、やったと認める「替え玉」を演じるにすぎなかったらう。従って、ここでまた、デービッド・ロックフェラーさんにご登場願って、真相をお教えいただく必要がありそう。

WTCとペンタゴンには、3つの金融犯罪の捜査資料が保管されていたし、捜査担当者も勤務していた。それらの情報と人が、ビルごと完璧に抹消された。WTCとペンタゴンは金融犯罪の証拠を消すために攻撃された。現実には実際にシンプルなものである。だが、この事実を素直に受け入れられる人は少ないだろう。まさか、そんな恐ろしいことを、同じ人間がやるわけがないと、誰もが一度は考える。自分たちの私利私欲のためなら、自国民を数千人殺戮して、アラブ人に罪をなすりつけて、なんとも思わない連中がいるというだけで、背筋が寒くなる話である。そして、それが平易な現実なのである。人間ではない人間が、この地球上に生息しているのだ。われわれと同じ空気を吸っているのだ。

WTC1の1001階から105階に入居していたのが、カンター・フィッツジェラルド証券という債権ブローカーである。1000人いた従業員のうち、700名近くが911攻撃で落命したという。さて、このカンター証券には、9月12日に償還期限の来る、1200億ドル分のブレイディー債債券が保管されていたという。そして、その債権は、ビルごと「蒸発」した。また、WTCの地下には、1200億ドル相当分のブレイディー債の担保にあたる金塊が保管されていたという。それらは、殆どが911当日朝までに運び出され、いまだに行方がわからないという。(実際には、最初から金塊などなかったと推理するのが利巧かもしれない。)

このブレイディー債の不正を捜査していた人たちが、WTC1の下層階のFBIの事務所にしたし、捜査資料も置かれていた。これらのFBIの事務所は、ビル倒壊よりも前に「内部爆破」され、瓦礫の山となっていたと、現場に救助に向かった救助隊員が証言している。そして、倒壊したWTC7にも、同じくFBIの隠し事務所があったという。「ブレイディー債」が、911攻撃の真相を知るための鍵のようだ。ロックフェラー翁にぜひ聞いてみたい話だ。

ペンタゴンが攻撃されたのも、どうやら、このブレイディー債犯罪がらみの理由があったようだ。ペンタゴンの突入部位には、海軍の諜報部門がおかれていた。この諜報部門も、同様にブレイディー債犯罪を捜査していたというのである。海軍の諜報部は、丸ごと焼き尽くされ、ブレイディー債の秘密を知る捜査官や会計監査官たちは、全滅した。

また、ペンタゴンに突入したとされる77便の乗客リストにもおかしなことがみつかる。軍関係者や軍産複合体の人物が異様に多いのである。しかも、「航空機の遠隔操作」技術の開発に関わる専門家が多く見受けられる。詳しくは後述するが、77便は実際にはペンタゴンに突入していないと思われる。突入したのは遠隔操作の小型の軍用機であったと確信する。WTCに突入した2機もまた、改造した軍用機であり、遠隔操作で突入したと思われる。ちなみに、ブッシュ政権の閣僚だったドブ・ゼークハイムなる、イスラエルとの二重国籍を持つシオニスト過激派ユダヤ人は、政権入りする前、「ハイジャックされた民間航空機の操縦を地上から乗っ取り、安全に着陸させる」技術を売る会社のCEOであった。ゼークハイムの会社の技術を使えば、安全に着陸させる代わりに、ペンタゴンの海軍諜報部の一角に正確にヒットさせることも、WTCの壁面にぶち当たることも、いとも簡単にやることが出来るのである。飛行学校の落第生だったアラブ人などに頼る必要は毛頭なかったのだ。ところで、そのイスラエルとの二重国籍を持ったゼークハイム氏だが、疑惑がささやかれたすと、さっさとイスラエルに渡ってしまい、引きこもってしまったという。

さて、ペンタゴンから、その77便の乗客乗員の遺体が見つかったと報道されている。もし、それが事実なら、身の毛もよだつような恐ろしい光景が目に見えてくる。他で殺して、バラバラにした上で焼けこがせた「乗客役の人物」の遺体を、ペンタゴンに持ち込んでおいた……遠隔操作を用いた911攻撃を敢行するに当たり、あとで秘密を暴露しそうな、遠隔操作に知見のある専門家を集めて殺して、口を封じ、77便の乗客に仕立て上げた……もう、これ以上の推測はよそう。もはや、人間には決して出来ない悪魔の所業でしかないから。

ブレイディー債以外にも、抹消してしまいたい金融犯罪の証拠が、マンハッタンの高層ビル内に、山積みになっていたようだ。攻撃対象となったビルと、金融犯罪の関係を簡単にまとめてみよう。

1 ブレイディー債1200億ドル分の債券、WTC1高層階のカンター証券で消滅。

- 2 プレディー債担保の金塊1200億ドル分、911当日朝までかかってWTC地下から、運び出され、行方不明。(実は最初からなかったのかもしれない。)
- 3 WTC1の22-24階のFBI事務所にあったロックフェラーのモービル石油の石油スワップ犯罪捜査資料、消滅。WTC7にもFBI事務所。
- 4 同じくFBI事務所にあったグリーンズパン、モルガン、GSのしかした金価格の固定疑惑の捜査資料消滅。
- 5 ペンタゴンの突入部に、海軍諜報部のプレディー債捜査部隊集結。全滅。
- 6 ペンタゴン突入の77便乗客に異様に多い軍関係者。他所で殺した？  
さて、これらの金融犯罪と911攻撃の関係を質すには、誰を問い詰めたらよからうか？オサマ・ビン・ラディンでないことだけは、間違いない。齢90歳をこえるロックフェラーのご老人と隠れユダヤ人、G・W・ブッシュの首根っこを捕まえて、犠牲者の写真3000枚と遺品の数々を突きつけて、「吐かせる」のが得策であると確信する。WTCの遺児たちの面前で。

参考サイト

■ペンタゴンとWTCが攻撃された本当の訳

<http://www15.ocn.ne.jp/~oyakodon/newversion/futunokaiwa2.htm#pw>

## ●大イスラエル帝国

ユダヤ裏組織の高官と自称する人たちのなかの一人からのメールに、こんな記載がある。(邦訳)

差出人: kg2289@aol.com

送信日時: 2006/03/16(木) 2:22

件名: 貴殿の明晰さは、極めて優秀なレベルだ。だが、貴殿は勝てない。

わたしは、感心した。わたしは、劣等人種(非ユダヤ人)が、我々の秘密の計画を発見できるなどと思いだにできなかった。しかし、いうまでもなく、貴殿はそれを成し遂げた。貴殿の明晰さは、極めて優秀なレベルだ。貴殿は、いとも簡単にCJAの存在を見つけてしまった。

このことはわたしを感心させた。しかし、貴殿が我々の主要作業員の正体を発見してしまったことには、実に驚いたし、大イスラエル帝国を建設しようとする我々の計画を発見したことには、特に驚かされた。貴殿はよくやった。

しかし、貴殿に信じがたい分析力があつたとしても、CJAの極めて高位の職員として、貴殿に伝えなくてはならないいくつかの不都合な事実がある。

1) 大イスラエル帝国建設の共同作業は、既に5000年にわたって発動されている。それらは中止することができないものである。貴殿の全ての行動は、わたしたちの計画的な裏に嵌まることになる。それがゆえに、貴殿がわたしたちの計画を発見したことに、わたしはそれほど驚かされなかった。我々はそれを予測していたからだ。(以下略)

Sincerely, An Anonymous High Ranking Advisor to the CJA

参考サイト

■ユダヤ世界権力の本丸からユダヤ追及サイトを閉鎖せよと脅迫メールが殺到。

[http://www15.ocn.ne.jp/~oyakodon/newversion/intimidation\\_j.htm](http://www15.ocn.ne.jp/~oyakodon/newversion/intimidation_j.htm)

この人物が、文中で言っている「大イスラエル帝国」の建設こそが、911を契機に始められた、ユダヤ権力の積年の計画であると考えられる。ユダヤ権力は、旧約聖書に記述に基づいて行動を起す「そう」としているのだ。イラクのフセイン政権が制圧されたとき、世界中のユダヤ人たちは歓喜の声を上げたであろう。多くのユダヤ人衆たちは、聖書の予言の実現が一步前に進んだことに深い感激を覚えたに違いない。旧約聖書の

創世記にこんな記述がある。

Genesis 15:18: On that day the LORD made a covenant with Abram and said, "To your descendants I give this land, from the river of Egypt to the great river, the Euphrates—

「エジプトの川、つまりナイル川から、ユーフラテス川までをユダヤ人に与える。そう、神がユダヤと契約した。」といった意味の予言である。旧約聖書には、ユダヤが中東に広大な帝国を建設すると予言されている。狂信的なユダヤ教徒、つまり、シオニストは、聖書の予言の実現に血道を上げる。実際、第二次大戦後のイスラエルの建国は、聖書のアモス書に「イスラエルの廃墟は再建され、ダビデ王の旧土が回復される。」という予言の実現の結果だったとされる。ユダヤ人たちは、聖書の記述は全て真実になると信じているのだ。

そして、イラク北部は、創世記の「ユーフラテス川まで」に相当する地域なのである。フセインを倒し、イラク北部に米国籍のユダヤ人が入り込んで、土地を買い漁る。イスラエルに移住していたユダヤ系クルド人が次々にイラクに戻っている。気がついてみると、クルド人がイラクからの分離独立運動を始めていた。勿論、黒幕はユダヤ人だ。イラク北部に小さなユダヤ人国家が出来つつある。世界がボーンツとしている間に、「大イスラエル」の建設が着々と進んでいるのである。

だが、大イスラエルを完成させるには、どうしてもシリアやレバノンが必要である。プッシュコ政権は、シリアを理不尽なまでに敵視し挑発する。イスラエルは、2006年8月、6年前からの計画通り、口実を作ってレバノンのヒズボラを攻撃し、虐殺を行った。そのイスラエルの蛮行を、隠れユダヤ人プッシュコは、全面的に支持した。プッシュコ隠れユダヤ政権とイスラエルが、今後イランとシリアへの侵略に踏み切れば、イスラエルと国境を接するレバノンのヒズボラは、イスラエルの人口密集地帯に向けて、ミサイルを発射する。テルアビブは火の海と化す。それ

がわかっているユダヤ人たちは、ヒズボラを徹底的に叩いて弱体化させようと試みた。そして、半ば目的を達した。また、イランとレバノンを結ぶ補給ルートも重点的に破壊した。ヒズボラがイランの支援を受けて再起することのないようにするのがひとつの目的であった。同時に、ユダヤ人たちは、イランとの戦争となれば、イランがレバノン領内に入り込んでイスラエルを直接攻撃してくると読んでいるのだ。そして、イスラエルは、そのイランとの戦争を望んでいる。ユダヤ人たちは、なんとかして、イランの資源を強奪し、かつ、シリア、レバノンをも解体して、大イスラエルに組み込もうと、今も策略をめぐらせているのだ。

参考サイト

■シオニスト・ユダヤ人たちが、今、着々と進めている大イスラエル帝国の建設

<http://www15.on.ne.jp/~oyakodon/newversion/zionist.htm>

## ●ハザール汗国の再興

十一世紀頃まで、カスピ海と黒海の間には、ハザール汗国というユダヤ教の国家が存在した。今の、ロシア南部やウクライナの東半分、グルジアやチエチエンといった地域を包含する巨大な帝国であった。この民族は、トルコ系の白人であり、現在、我々が眼にする「アシケナジ・ユダヤ人」の祖先に当たるといえる。本来のユダヤ人である「セファルディ・ユダヤ」とは民族的に異なるようだが、ダビデ・ソロモン王の王国が滅亡した後、東方に逃れたユダヤ十支族の末裔のひとつが、ハザールの民だとする説がある。(スターリンの副官・石油相だったカガノビッチなる人物は、実は、このハザール王国の王家の血を引くという。スターリンは三番目の妻に、このカガノビッチの妹を娶った。その実、スターリン時代までは、ソ連という国は、アシケナジ・ユダヤ人によるユダヤ独裁国家だったのである。)

アフガン戦争の結果、中央アジアに異変が起きた。米軍の駐留が認められ、米軍基地がいくつも開設された。また、ウクライナでは、オレン

シ革命、グルジアではバラ革命といった、「民主化革命」の名を冠したユダヤ・クーデターが引き起こされ、ユダヤ権力の息のかかった政権が次々誕生した。背後で、ジョージ・ソロスたちが蠢いている。これはいったいなににごとか？旧ハザール汗国の版図にあたる地域で、ユダヤ権力による国家の再興が行われているとしか考えられない。

だが、旧ハザールの主要部分は、現在ではロシア共和国の南部に相当する部分である。ロシアで内乱でも起こさない限り、分離独立させて版図に組み込み、ハザール汗国を再興することは出来ない。だが、やろうとした形跡がある。ロシアのオウムの活動がそれであったと考える。（こんな見方をしているのは、当事者以外では、恐らく世界で私ただ一人かもしれないが。）

- 1 刺殺された、民主党の石井議員は、政界きつてのロシア通だったが、生前、「ロシアには、統一教会が先に進出していたが、いつの間にか統一の連中が、オウムに置き換わってしまった。」と証言している。
- 2 オウムはラジオ放送を通じて、短期間に多くのロシア人信者を集めた。
- 3 オウムは当時のエリツィン政権高官に接近して買収していた。エリツィン政権は、米国ユダヤ人に操縦された、完全なユダヤ傀儡政権であった。
- 4 オウム事件以後、ロシアのオウムの残党は、モスクワの南の地方やクリミア半島など、旧ハザール領土に相当する地域に拠点を置いている。

ロシアのオウムとは、ロシアのユダヤ人であったと考える。NYのユダヤ権力とつながるんだ朝鮮半島人宗教、統一教会は、子会社のオウムを使って、ロシア内部にユダヤ人の組織をつくった。それがロシアのオウムだった。ユダヤ人たちはひとつの目的を持って、オウムの下に集まった。それはなんであったろうか？ロシア共和国南部とウクライナ、グルジアをつなげると、旧ハザール汗国の版図が蘇ってくる。オウム残党が拠点を置いている地点が、皆、旧ハザールの中であることが気になる。彼らは、ハザール汗国の再興を計画していたのかもしれない。オウムに

よるロシア内乱を契機にして。旧ハザール奪還の試みは、アシケナジユダヤ人の密かなる渴望を満足させる。米国経済を支配するアシケナジ・ユダヤ人たちは、プッシュの中央アジア戦略が、ユダヤ帝国の再興であることを読み取る。そして、アフガン侵略を全面的に支持する。一方で、プッシュと背後のロックフェラーは、アフガンの麻薬利権、石油利権をたっぴりと手に入れる。ユダヤ大衆を喜ばせ、自らも利益をむさぼる。一挙両得の手法は、アフガンでも使われていたのである。

#### 参考サイト

■ウクライナ：着々と進む、いにしえのユダヤ大帝國復活・送油利権大作戦

<http://www15.ocn.ne.jp/~oyakodon/newversion/kz.htm>

■石井紘基議員が、トータル凶会に暗殺されたワケが判るとオウム事件の本質が見えてくる。

<http://www15.ocn.ne.jp/~oyakodon/newversion/ishijin.htm>

三・911攻撃の技術的解析 ★WTCは水爆倒壊 ★ペンタゴン攻撃のカラクリ

WTCは、ユダヤ金融犯罪の隠蔽の目的で倒壊させられたと考える。では、その倒壊の方法は？ブッシュ政権の言う航空機燃料火災による倒壊というのは、たちの悪い冗談に過ぎない。イスラム過激派はもとより無関係だ。公式見解など、検証するだけ時間の無駄である。

最近では、ネット上では、内部爆破が倒壊原因であろうと、盛んに議論されている。通常爆弾やサーマイト（酸化還元反応を用いた燃焼法）が疑われている。私の見解は単純明快である。そして、誰もが、「そんな馬鹿なあ」と慨嘆するような意見である。

「通常爆弾も、サーマイトも使用された。だが、倒壊の真因は、水爆の爆発である。」と私が書く。周囲に「嘲笑」の空気が一瞬にして充満する。世の人々の常識は、以下である。

- ① そんな威力の小さな水爆などありえない。
- ② 水爆が爆発すれば、広範囲に放射能がばら撒かれて核汚染するから、すぐに発覚する。
- ③ 水爆の爆発力の方向を制御して、WTCをビル爆破のようにきれいに倒壊させることなど不可能だ。水平方向に被害が広がったはずだ。

とりあえず、そういった疑問に答える前にやるべきことがある。WTC事件で報告されている事実を、いくつか箇条書きにしてみよう。

●癌患者の集団発生

WTC救助に従事した救助者のうち300人が癌を発症している。30数名が既に癌で死亡している。この重大な事実は、アメリカ最古といわれる新聞、ニューヨーク・ポストだけが報じた。エーデルマンなる女性記者の署名入り記事が3件ほど掲載された。（記事では、癌多発の原因は深く追及していない。）その癌の種類は、脳腫瘍や非ホジキンリンパ腫や白血病であり、放射線被爆を想起させる類の癌である。非ホジキンリンパ腫は、極めて高い放射線を浴びた人に特有の癌である。特に、911発生から早い時期に現場に入った人物に発症が頻発している。癌の集団発生は、すぐさま、放射線被曝を思い起こさせる。大衆がこれに気がつけば、收拾はつかなくなる。この事実を米国大手メディアが殆ど無視して、報道しない。NYPも、後追い報道を止めてしまった。ユダヤ・メディアは、報道しないことで、911の黒幕を救おうとしている。（NYPは、現在では、シオニストユダヤ人でFOXニュース経営者のルパート・マードックが支配する新聞社である。自分の系列の末端弱小メディアが、911の秘密を報道してしまったことに、マードックは驚いたに違いない。NYPの当初の記事は、なぜか、ウェブ上から抹消され参照できなくなっている。マードックの狼狽振りが目に浮かぶようである。）

ニューヨークの警察官の互助組織の掲示板では、WTC跡地に入りして発症した警察官たちが、さまざまな書き込みをしている。ネットの有志が翻訳してくれた書き込みを転載しよう。彼らの痛みが直に伝わってくる。

World Trade Center Illnesses

[http://www.nyopba.org/wtc/blog/2006/07/world\\_trade\\_center\\_illnesses.html](http://www.nyopba.org/wtc/blog/2006/07/world_trade_center_illnesses.html)

2006年7月23日（匿名）

私はWTCの敷地に、01年9月11日から2002年2月までいました。2005年6月、41歳で、癌と診断されました。2006年

7月に、前立腺の全摘出手術を受けました。それ以来、尿路と膀胱の治療のため、少なくとも十度の追加処置を受けています。それとともに、慢性の胸やけ、PTSD（心的外傷ストレス障害）、睡眠時無呼吸症、そして、排尿障害も続いており、この年末に、人工括約筋を埋め込むために、さらに手術を受けることになっています。また、最近になって、拘束性肺疾患とも診断されました。あなたもどうか、検診を受けてください。あなた自身のため、でなくても、家族のために!!!

2006年7月25日（匿名）

私はWTCと、スタッテン島埋立地に、およそ73日、累計で890時間いました。昨年、私は甲状腺癌と診断され、甲状腺はすべて取り除かれ、放射線治療を受けており、現在、甲状腺ホルモン充填療法を検討中です。8月末に、精密検査のため再入院します。願わくば、この癌が再発しませんように。

この治療中に、私は二度目の癌の初期にあることを、医師が発見しました。多発性骨髄腫という、血液の癌です。これが発見されたことは、まったくの幸運でした。私は現在、市中の癌病院で、病による試練を待つ身の上です。

2006年7月25日（Lucky orphan）

NYCPBA（ニューヨーク市巡査慈善協会）が、等級の区別なく、われわれの権利のための戦いを導いてくれたことを、神に感謝。私は「グラウンド・ゼロ」で二ヶ月間勤務し、2001年11月に退職しました。誇りをもってNY市警に奉職してきました。昨年、46歳で、扁平上皮癌と診断されました。咽喉癌です。私は人生でタバコを吸っていたことはなく、「グラウンド・ゼロ」での勤務を除いて、有毒物に曝されたこともありません。いつも健康で、活発でした。現在は小売状態にあります。メモリアル・スローン・ケタリング癌センターで治療を受け、医師たちに命を救われました。癌によって、私は永久的な損傷を被りましたが、生きています。政府が「正しい行動」をとってくれること、われわれ皆がかかえる、生涯にわたって続く薬物治療と、収入の喪失に対して、保護と補償を提供してくれることを希望します。われわれの権利のために声を上げてくれる、パットと、すべてのスタッフに、再度感謝を。

2006年7月26日（Lucky orphan）

さらに2名、甲状腺癌を発症した人々が、追加登録されました。悲しいことですが、私は、ひとりではなかったことを喜んでもいます。一年以上にわたり、医学界は、WTCと私の甲状腺癌は無関係であるとしてきました。彼らは、今なら何と申うでしょうね？ 他にももっと、同じような状況の、市警の職員がいると聞いています。

2006年8月13日（Gien）

800時間以上を、瓦礫の上での作業に従事して、2002年の8月に、通常の恩給と完全な健康状態へと、思っていた）で退職しました。退職してから、呼吸が以前よりも困難になり、また日々、極度の疲労感を自覚するようになりました。最近になって、血尿が出るようになり、膀胱癌と診断されました。PBA（巡査慈善協会）は、他の警官たちの病気や不幸と比較検討するため、未解決の登録として取り扱っています。私は他にも、同様の症状や病気（癌）の人々がいることに気づきました。市と市警当局が、「グラウンド・ゼロ」こそが、私達が病にかかった真の原因であることを、最終的に認定してくれることを希望いたします。

WTCの現場で献身的に働いた警察官たちが、原因不明の発癌で苦しんでいる。次々と命を落としている。だが、誰も、WTCでなにがあったのか、なにが原因で癌が多発しているのかを解明できない。本人たちも知らない。「放射線被曝」という原因があることを。

#### ●WTC症候群

「WTC症候群」なる奇病に一万五千人以上のニューヨークカーが罹患している。911当時、マンハッタンにいた人たち、グラウンド・ゼロに入った人たちだ。彼らの主たる症状は、呼吸困難である。「喘息」状の発作を示す人も多い。911の際に吸い込んだ粉塵が原因であるとい



われている。だが、粉塵のどの成分が、事件から5年たっても呼吸困難を引き起こしているのか、専門家も分析できていない。原因不明の奇病として扱われており、政府は粉塵とは無関係だと逃げている。誰も、この事象を説明できない。

水爆が爆発すると、放射性同位体( $^{90}\text{Sr}$ )であるトリチウムが発生する。これがWTCの地下水や粉塵から、検出されている。水爆の爆発以外にトリチウムの存在を説明する方法はない。人間が、これを粉塵や鉄粉と一緒に吸い込んでしまうと、体内に取り込まれたトリチウムは、一部は体外に排出され、一部は呼吸器などに沈着し残留する。トリチウムは、半減期が12、3年であるため、10年以上の間、患者はベータ線による継続的な体内被曝に苦しむことになる。よって、呼吸困難が続く。患者や医療関係者は、このシンプルな結論に、いつになったら気がつくのであろうか？私は、英文サイトで、この点を啓蒙してきたが、米国のごく限られた優秀な専門家しか、これが理解できていない様子だ。(もっとも、「優秀なユダヤ人科学者」の大半は解っていて、沈黙しているのだろうか。)

#### ●コンクリートが70〜300ミクロンに粉砕された

WTC倒壊に伴い70〜300ミクロンの微細な粉塵が生成され、上空から大量に飛散した。ビルを構成する物質の落下エネルギーが、コンクリートをここまで粉砕できるわけがない。通常型爆弾でも、「粉末加工」は出来ない。サーマイトでも同様だ。コンクリートには水分が含まれる。水爆が爆発して発生した1000万度の熱は、コンクリートに含まれる水分を一瞬で蒸発させる。蒸発による圧力、つまり水蒸気爆発がコンクリートを粉々に砕く。これ以外には、微粉末の大量発生の原因は考えられない。

#### ●WTC地下に溶解した鉄のプールが3ヶ月間存在

溶解したドロドロの鉄のプールが、WTC1、2、7の地下で発見されている。911以後三ヶ月たっても、プールは維持されていた。鉄

は、2800度くらいで蒸発する。1850度程度で溶解する。極めて高い温度で熱せられたから、鉄のプールが出来たのである。さらには、WTC7では、鉄が蒸発した形跡が認められている。鉄は簡単には蒸発しない。なにが、原因足りうるか？サーマイトであろうか？溶解だけであるならば、それも考えうる。だが、蒸発したとなると、サーマイト説では無理がある。一旦蒸発した鉄も、温度が下がれば、溶解した鉄に形を変える。これらは、地下に溶解したプールとなって溜まる。このプールを作りえたのは、1000万度の熱を発生する水爆ではないのか？分子レベルまで小さなサイズとなった鉄分が発見されている。鉄が蒸発したことを示唆する。水爆以外になにがそのような高熱と熱量を作りえたというのか？

WTCでは、テロ発生直後から当局が大量の放水を行っている。瓦礫に向けて、膨大な量の水が注がれた。それは、数ヶ月に及んだという。火災の鎮火を目的としたものと、誰もが思う。だが、私は思わなかった。水爆の爆発で発生する中性子線は、水素と接触すると、遮蔽される。瓦礫を放水で広範囲に覆ってしまえば、中性子は減衰し、人体への影響が弱まる。そしてトリチウムは洗い流されて検出されなくなる。プッシュー一味は、5年後の癌患者大量発生を防止するため、事件後すぐさま放水を開始したのではあるまいか？だが、癌多発は防げなかったようだが。

#### ●核爆発に特有の地震波

マグニチュード2.1及び2.3の地震波が、南棟、北棟倒壊時、それぞれ観測された。WTCから34キロ離れた、コロンビア大学のニューヨーク州にある観測所が観測をしている。地震波の発生原因は何か？ビル倒壊に伴う地震波なのか？

水爆を含む核実験で特有の地震波が観測されるのは、広く知られた事実である。核爆発による地震波形には特徴があり、時間が短く、揺れが鋭い。つまり、高いスパイクを見せる。これは、水爆の爆発が、大きな力と速度を伴っていることを示している。また、自然の地震と比べ、核

爆発によるそれは、非常にシンブルな波形をとるといふ。このユニークな地震波の波形を分析することで、自然の地震と峻別することが出来る。現実に、世界中で地震波をモニターすることで、核実験を監視している。つまり、核が使われたことは隠蔽できない体制になっている。そして、今回のWTC倒壊時にこの核爆発特有の波形が記録されている。ソ連の地下核実験、WTC北棟の地震波形を比較すると、同じ特徴が見られる。WTCで水爆が使われた可能性が強いことが、ここからもわかる。

ここで注目すべきは、アフガン戦争当時、地震波の波形から、「核が使われたのではないか？」と疑われたケースがあったことである。ブッシュ政権が、アフガンのタリバンの攻撃を開始した当初の2001年10月、パキスタン西部のクエッタの北西88kmを震源とするマグニチュード3の地震が観測された。その特徴的な波形から、戦術核が使用されたと疑われた。その疑惑は、一部で報道もされている。だが、核爆発につきものの周辺の大気中の放射能濃度上昇等の報告が見られなかったため、中途半端でうやむやになった。「核実験には周辺の放射能濃度の上昇が付きものだ」というのが、常識になっている。だから、それがみられなかったパキスタンのケースは、核の使用ではないと概ね判断された。核爆発特有の揺れがみられるのに、放射能汚染がないという点では、パキスタンのケースも共通している。さらには、爆発地点に大きなクレーターができ、数十人が蒸発したインドネシア・バリ島の爆破事件でも、放射能汚染は報告されていない。これも示唆的な事実である。クエッタのケースでは、同時期に米軍がバンカーバスター弾を使用していることがわかっている。そして、バンカーバスターには通常弾頭ではなく、核弾頭を搭載したタイプがある。その爆弾がさらに新しい世代の、放射性物質の出ない、純粋水爆型であった可能性がある。

#### ●WTCの遺体1,600人分が蒸発

WTCの瓦礫の中で、遺体を収容する作業が行われた。だが、いくら探しても、1600人分の遺体が全く見つからない。焼死しても、全部きれいになくはしない。炭化しても残骸は残る。だが、全く残っていない。主任検死官は、「遺体が蒸発してしまった、と言うしかない。識別しようにもできなかつた」と遺族に報告している。検死官は、「蒸発した」というのを、英語でvaporizedと表現しているのだそう。それ

ほどの高熱を水爆以外の何が与えるのか？水爆で発生する1000万度の熱は、一瞬にして人体を蒸発させ、なにも残さない。実は、同様に犠牲者の遺体が蒸発してしまった爆破事件が他にもおきている。インドネシア・バリ島のデイスコで起きた爆破事件である。数十人の遺体が完全に消滅している。バリの事件については、故ジョー・バイオール氏が、マイクロ・ニューク（超小型核）が使われたのではないかと疑惑を提起している。それが原因であろうか、バイオール氏の名前の頭に、2005年、（故）がついてしまったのである。

#### ●停電・通信障害

WTC倒壊時、マンハッタンで停電がおきたほか、GSM携帯電話が使えなくなった、デジタルカメラやビデオカメラにおかしな残光が映っている、電話もファックスも電子メールも駄目になった。復旧には12月まで掛かっている。消防士の使うウォークトーカーも駄目になったから、指揮官が南棟倒壊後北棟に残っていた隊員に避難するように指示も出来なかつたそう。核爆発では、電子機器、通信機器が使い物にならなくなる。水爆が使われれば、電磁波パルスが発生して、こういう事態になる。サーマイトでも通常爆破でも、このような現象はおき得ない。

#### ●WTCで不審な停電工事

9月8、9日の週末に、WTCで停電工事が行われている。その間、セキュリティロックもセキュリティカメラも作動していない。爆発物探知犬が、常に見回っていたはずなのに、6日から急に来なくなつた。停電している間に、特殊な設備が運び込まれて、設置されたのかもしれない。しかも、そのWTCの警備関係の設備業者が、ブッシュの末弟の係わる会社に代わって数週間しかたっていない。警備関係の設備設置の名目で、おかしな爆弾や起爆装置を持ち込むことも出来たかもしれない。そして起爆後は、それらの設備の上には、蒸発溶解した高温の鉄が降り注ぐ。全ては焼き尽くされ溶解し、証拠は自動的に隠滅される。

さて、ここまで、水爆の臭いをたっぷりと嗅いでいただいた上で、冒頭の設問の答えを出そう。

① そんな威力の小さな水爆などありえない。

答え：ある。0.1ー0.3キロトンまでは実在が確認されている。米国とイスラエルが所有している。当然、実際にはもっと小さいものが開発されている可能性がある。水爆は威力が大きすぎるのが問題だった。敵を攻撃すると、隣の友好国家まで壊滅してしまう。これでは実際には使用できない。そこで、冷戦以降、小型水爆の開発が水面下で進められてきた。同じ爆弾でも、威力を調整してから使用できるようにになっている。(ちなみに広島原爆の威力は、15から16キロトン。長崎は20キロトン。)

② 水爆が爆発すれば、広範囲に放射能がばら撒かれて核汚染するから、すぐに発覚する。

答え：全くその通りである。従来型の水爆であれば、間違いなく、ウランやプルトニウムが広範囲にばら撒かれる。ありとあらゆるガイガーカウンターがけたたましく警戒音を発して、核の使用があつという間に発覚する。従来型の水爆では、水爆の起爆には、原爆が用いられている。原爆が発した高い熱と圧力によって、水爆が起爆される。よって、原爆から出た放射能が、ところかまわず環境を汚染しまくるのは、避けられない。

WTCでは、「放射能」自体はどうやら検出されていない様子だ。だから、水爆の使用はありえない。だが、我々が注目しているのは、従来型とは異なるタイプの水爆の開発が進んでいる事実である。原爆を用いずに、起爆される水爆を純粋水爆という。(原爆が使われないから、放射能は出ない。高熱だけが爆弾の武器となる。だが、起爆時に放射線は照射されるので、爆発から10時間くらいの間に現場に入った人たちは、中性子線などの放射線に晒され、被爆する。5年後以降に高い確率で癌を発症する。ただし、中性子線は、どんなに高レベルでも通常のガ

イガーカウンターでは検出されないし、照射後10時間たてば、滅失してしまう。よって、核が使われたことすら、わからないままに終わる恐れがある。)その起爆の方法は、二つ考えられる。「熱核融合」と「常温核融合」である。前者は、レーザーやプラズマなどで超高温・超高压を作り出し、水爆を起爆する方法である。だが、実現したとされる確たる情報はない。また、装置が巨大であり、WTCの地下におさまるような代物ではなさそうである。唯一考えうるのは、「常温核融合」である。常温核融合といえは、胡散臭い、インチキ臭い技術の代表である。もう10年以上の間、捨て置かれ、忘れ去られた技術である。ところが、最近になって、大阪大学の高名な先生が実験に成功したと公表した。だが、どのメディアも一様に、この大発明を無視して、記事にすらしなかった。世界には胡散くさい、信用ならない技術と合わせて、研究者を研究から遠ざけておき、自分たちだけは必死に研究を続けていた人たちが米国のユタ州あたりにいたようである。今、米国ブリガム・ヤング大学のステイブン・ジョーンズ教授が、「WTCのサーマイトによる内部爆破破壊説」なるものを唱えて、話題を呼んでいる。酸化還元反応によって、非常に高い熱を生み出し、WTCの鉄骨を溶かして倒壊させたとする、内部破壊説である。教授は、この説で、WTC地下に出来た溶解した鉄のプールの存在を説明している。

だが、サーマイト説で全てが説明できるわけではない。癌の多発など、全く説明がつかない。それよりも私が注目するのは、ジョーンズ教授の専門が、常温核融合であるという事実のほうだ。実現しているのであれば、純粋水爆の起爆に利用できる常温核融合の技術。しかも、極めてコンパクトな装置となるはずゆえ、バンカーバスター型爆弾の弾頭のような狭いスペースに収納することも可能かもしれない。そんな技術の研究の最先端にいるはずのジョーンズ教授が、常温核融合が起爆に使われた可能性に一切触れずに、専門外で畑違いの「サーマイト説」を唱えたことに、違和感を感じる。この点を不審に思った人物が、「純粋水爆が使われたのではないか？」という前提のもとに、ジョーンズ教授に23項目の公開質問状を送ったが、教授からは解答がない。ちなみに、私が、英文サイトで、「サーマイト説は、水爆の使用をこまかす為のダミー説ではないのか？」と指摘したところ、同じく水爆説を支持する米国の一研究者から、教授の周辺に「脅迫、買収、強要」といった外部からの圧力が存在することをほのめかす情報をいただいた。つまり、「お前はサーマイト説だけ追及している！」という圧力であろう。私自身も、ユダヤ権力の中枢にいと称する方々から、余計な詮索をせず、黙っていれば金持ちにしてやるといったご提案を多々いただいている。脅しと買

収の二本立てである。ついでに、そのいくつかを「紹介しよう。まずは、「脅迫」部門からである。

An Anonymous High Ranking Advisor to the CJA : 「我々は、貴殿に対して最悪の方法をとる用意ができています。貴殿の分析力の高さがなければ、我々は貴殿をとくに殺害していた。」「貴殿の死には、五百万ドルの懸賞がかけられている。」「いつの日か我々は、貴殿を探し出す。Richard Koshimizu。そして、その日、我々は貴殿を殺す。」

デービット・ゴールドシュタイン : 「もしあなたが高位の政治家やその他の隠れユダヤ人についての情報を取り下げない場合は、あなたに対して行動を起こすであろう。」「

Yoav Golan : 「もし、仕方ない事態になれば、我々は、決定的な行動をとる。そうならば、あなたの住むささやかな夢の世界は、すべて、はるかに不愉快なものになるだろう。これを警告と受け取ってくれ。」「

Dr. Isaac Rockeburg Lowenstein : 「我々は、シンドラーのリストを用意している。わたしの意味するところはわかるだろう。貴殿がどこにいても、近い将来、自分が「大イスラエル」にいることに気づくだろう。」「

Rachim Derora : 「前回の提案で、インターネットから貴殿のサイトを取り除き、今後一生の間沈黙しているよう要求した。わたしたちは、貴殿の全ての行動を監視している。貴殿が、処罰を受けることなく、プロバガンダを続けられると思うな。CJAの最優先項目は、CJAが生き残ることであり、従って、貴殿の存在は脅威である。友好関係の期間は既に終わった。今こそ、貴殿が沈黙を守り、貴殿のセオリーを引っ込めるときである。」「貴殿のような、おおげさな馬鹿者が妨害を始めた場合、行動をとる必要がある。これが最後の警告であることを忘れるな。」「わたしたちは、貴方にわたしたちの仲間に加わる機会を提供した。だが、貴殿がそれを理解するに程遠いことは明らかだ。ユダヤの目が貴殿を常に監視していることを忘れるな。貴殿のやることなすことが、監視されている。」「

そして、今度は「買収」提案だ。

デービット・ゴールドシュタイン : 「こちら側に寝返り、CJAのために働くのは悪くないアイデアであろう。そうすれば、あなたは口ツクフェラーやヒットラーのような贅沢な生活を送ることができる。」「

An Anonymous High Ranking Advisor to the CJA : 「貴殿にわたしが推奨するのは、諦めて、残りの人生を安楽に生きることである。我々のエージェント、デービット・ゴールドシュタインから貴殿に提案されたオファーは、まだ、有効である。もし興味があれば、わたしに連絡をくれ。」「

Rachim Derora : 「わたしたちは、貴殿の労作に対して、激しい苦痛を伴うような深刻な手段をとらざる得なくなるときが迫っている。しかしながら、わたしは貴殿にもう一度チャンスを与える。」「

Edward Petruso : 「メールの偽造部分については、かすかなヒントを残しておいた。直接、貴殿の分析力をテストしてみたからだ。貴殿は我々に参加すべきであろうと思う。結局のところ、貴殿が我々に勝つ方法などない。諦めて、我々が提供するopulentな生活を楽しまばいい。我々の秘密の公開をやめると約束するだけでも、たっぷりと褒賞を与える。」「(注 opulentは、opulentの間違いと思われる。「贅沢な」の意。)

このような脅迫と買収提案のセットが、主要な911疑惑追及者につきつけられる。中には屈服する人もいるだろう。だが、私の場合は、全ての提案を丁重にお断りした。その結果、2006年7月になって、次のようなメールを頂戴した。

発信者 : Edward Petruso

日時 : 2006/7/20 14:33

我々は貴殿のおかげで心配事を抱えることになるとは思っていない。我々は、非常に神経質になっていたが、貴殿がいかに無力で、脆弱であるか解っていないかったのだ。我々は貴殿に対して、我々の仲間に加わるよう求めた提案の全てを取り消す。心配することはない。貴殿を抹殺することは、その死因に余計な関心が集まると判断した。貴殿は、残りの人生を全く無名のまま過ごすことになる。それが、我々と

っても最良のことでもある。

どうやら、ユダヤ権力による私の死刑執行は、いったんは、執行停止となった模様である。ところが、この執行猶予は、三ヶ月ほどしか有効ではなかった。そして、2006年の10月初めになって、取り消された。私の首には、改めて、五百万ドルの懸賞金が掛けられた。私の死刑執行を猶予してくれた、ペトルソ氏自身が、私の代わりに死刑になってしまった模様である。(死刑執行が事実かどうかは、知らない。)その経緯については、巻頭のコーヘン氏からのメールを参照いただきたい。さて、いささか脱線した。本論に戻ろう。

既に常温核融合の技術が確立して、バンカーバスターに搭載できるような小型の純粋水爆が存在するのであると見るのは、今のところ、フィンランドの軍事専門家、米国の研究者の一部、それに私くらいのものである。だが、これが真相であると考え、常温核融合が完成しているとしても、絶対に開示できない事情も十分わかる。ユダヤ権力の「次の計画」の遂行には、なくてはならない極秘の手段となるからである。彼らは、WTCで、この新型爆弾を試したし、アフガンでもイラクでもOKCビルでもバリ島でも実験したと考える。「劣化ウランによる被害」と称する発癌や奇形児の出生が報告されているところでは、どこでも、純粋水爆が使用された恐れがある。北朝鮮の鉄道駅での大爆破事故でも、同じにおいがする。

2002年に毎日新聞だけが取り上げた小さな記事があった。大阪大学の荒田、藤田両名誉教授が、「パラジウムの超微粒子に重水素ガスを取り込ませてレーザー光線を当てる新方式で、核融合反応の際に生じるヘリウムを確認した」と発表したのである。核融合に必要とされる数億気圧なしに、核融合反応が実現したという。この手法を使えば、大掛かりな設備を使わずに、低コストでエネルギーを取り出すことが出来ると主張した。言い換えれば、純粋水爆の起爆に使える小型の常温核融合装置が開発しうることをも意味している。荒田教授は母校に記念館があるほどの有力な学者であり、学士院会員でもある。藤田教授も2002年に学士院会員に推挙された。日本を代表する大学者の画期的な研究成果は、日本の大メディアがこぞって、「無視」することで、闇に葬り去られた。

どうやら、常温核融合の技術は、「存在しない」ことにしておきたい人たちがいるようである。過去にも大メディアはその人たちの利益のために、「真実を報道しない」ことで貢献してきた。オウム事件でも911でも同じ行動を示した。「信用できない、オカルトじみた技術」だと見せかけて、世界の科学者が近寄らないように工作し、自分たちだけが研究に専念してきた人たちが、米国のユタ州辺りにいるということではなからうか？

③ 水爆の爆発力の方向を制御して、WTCをビル爆破のようにきれいに倒壊させることなど不可能だ。水平方向に被害が広がったはずだ。答え：米国が開発してきた核弾頭付バンカーバスター爆弾は、核の爆発力を下方に集中させて、地盤を数百メートルも掘り進み、大深度の敵の基地を核攻撃するものである。核爆発の方向性を一点に集中させて、周囲に副次的被害を与えない技術は既にあると見る。一説には、爆発力の96%を一方方向に集中させられるとも言っている。これを応用して、上向きに爆発させれば、周囲に大きな影響を与えずに、上方のみに攻撃力を集中できる。

その瞬間、中性子線が照射されたであろう。そして、その照射方向である、ビル上方にいた生物は、照射を浴びて、死滅したであろう。だが、WTC内にいた人たちは、中性子で死ぬ前に、水爆の高熱で「蒸発」していただろうと推測される。(1600人が現実に蒸発している。)

しかし、水爆による中性子線を上方だけに照射するように制御など出来るのだろうか？上方だけでなく、一部は、側面にも照射されるのではないか？そうならば、離れた場所に立って、WTC炎上を眺めていた人たちが救助者には、即死者が続出したであろう。だが、現実にはそのようなことは起きていないと思われる。WTCの地下は、地下8階に相当する深さになっており、内部は分厚いコンクリートの柵のような形状になっている。付近の地層は、ハドソン川系の地下水に溢れており、WTC地下への漏水を防ぐために、堅牢なコンクリートによる防護がなされ

ている。そのコンクリートの外の地盤は、地下水をたっぷり含んだ湿潤な地層である。

中性子は、水素と接すると遮蔽される。また、コンクリートは、水分を含んでいるため、同じ意味で遮蔽の役割をする。水爆がWTCの地下8階相当の深さで爆発したと仮定すれば、まず、コンクリートで遮蔽され、さらには外側の水分をたっぷり含んだ地盤で、遮蔽される。減衰した中性子線は、地上の生物を殺傷するにはいたらなかった。そして、発生した中性子線の大半は上方に向けて集中的に照射された。このように推察する。(それでも、横方向への被害は報告されている。WTCの西側の路上に駐車してあった車の、WTC側のドアだけが、ボディに溶接されてしまっている。横方向の被害は皆無ではなかったようである。)

参考サイト

■ユダヤ世界権力の本丸からユダヤ追及サイトを閉鎖せよと脅迫メールが殺到。

<http://www15.ocn.ne.jp/~oyakodon/newversion/intimidation.htm>

以上のように小型戦術核純粋水爆説に立脚すると、WTCでおきた現象の多くが明快に説明されることに、読者諸兄は少なからず驚かれたことであろう。世界の目が水爆説に向かうのを恐れ、急遽、現象を部分的にせよ説明できるサーマイト説が喧伝され、注意を引こうとしているように考えるのは私だけだろうか？911内部犯行者たちは、想像以上に追い詰められていると観測する。2006年9月に入ってから、WTC水爆倒壊説を論じるサイトが、アメリカで増殖を始めた。もはや、私の英文サイトだけではない。

アメリカの医学博士、エド・ワード氏は、私にも水爆の起爆法について問い合わせをしてきた「純粋水爆派」であるが、彼も今後、水爆説を世界に拡散していく人物となろう。彼の言を紹介しておく。

◎合衆国政府の、WTCにおける水爆の使用

エド・ワード医学博士 2006年9月28日 PM 12:10分

「われわれの政府は、第三世代、ことによると第四世代の水爆を、国内外で使用してきたし、今でも使っている。外国で使ったことの証拠は、国内における使用の証拠ほど確かなものではないが、国内における使用法が検証されるならば、外国での使用も、隠しきれなくなるだろう。確定された事実をふるいにかけてゆくと、世界貿易センタービル(WTC)の破壊を引き起こした唯一の、ありうる可能性は、純粋水爆である」

「これらは、単なる事実である。救急隊員たちのあいだに、広範囲にわたって癌が発生していること。溶融した鉄。溶けた車。数百フィートも飛び出した鋼鉄の梁、煙霧化した金属。目撃され、ビデオにも収録されている、蒸発した鉄。粉々になり、煙霧状になったコンクリート。トリチウム検出値の上昇。消滅(蒸発)した犠牲者たち。屋上にいた犠牲者たちの、ほんのわずかな残骸。EMP(電磁パルス)の、通信網への影響。英雄的な救助隊員や被災者ら、数百人の目撃者が証言している、副次的な、複数の爆発。大量の残骸の飛散。爆破の専門家、この種の破壊を引き起こすには、水爆が必要とされると言明している。崩落に先立って起こった、巨大な破壊音。副次的な爆発の映像・音声。残骸の堆積の、はなはだしい減少。残骸から発見されたサーマイト付随物。小規模な核爆発の衝撃が、人々をなぎ倒したのだ。20万ガロンの水の蒸発。残骸は調査もせず撤去。ひとつの高層ビルに航空機が突入し、数分後には、わずかな燃えかすだけになっている。火災に引き続いて起こった、史上空前の、三つの摩天楼の崩壊。早期の誤算は、WTC第7ビルだ。この建物は爆破か、自由落下の速度で崩壊している。WTC第7ビルの、予定された即時崩壊。飛行機の付随物とともに、二機の航空機の与えた衝撃の直前に、煙と爆発がおこっていること、スローモーション・ビデオの証拠。異変飛行物体に対する、NORAD(北米航空宇宙防衛司令部)の、前代未聞の無反応。FEMA(連邦危機管理庁)の訓練は、このような場合のためである。軍の『発動』は、NORADの対応を阻止することにほかならなかった。NORAD防衛機の主力は、別の『訓練』のために、遠い彼方へ送られた。調査に任命された人々による、残骸物の検査の妨害。小規模な核爆発による地震の発生の証拠。チエニー副大統領によるNORADの指揮権の制圧。チエニーはNORADの対応を阻止。WTCビル群の、仕組まれた757型機の衝突と火災。911は事前に計画されていた戦争に、欺瞞的に利用された。政府の捏造した

『証拠』は戦争の開始に関連づけられた。数百人の人々が衝撃の中で、鍵のかかった扉に阻まれ、上下への逃げ道を失った。最後に、ブッシュ大統領は、これらの出来事と何の関係もない人々にテロリストの烙印を押した。それですべてではないが」

かれらは、WTCなどで、純粹水爆を試用し、データを蓄積していると考える。かれらが自論も究極の最終テロの遂行には、どうしても純粹水爆が必要だからだ。その日が来るまで、純粹水爆の存在は、なにがなんでも秘匿しておかなくてはならない。彼らがどんな局面で純粹水爆を使おうとしているかは、本書の最後に記述することになる。

参考サイト

■WTC小型水爆倒壊説の検証

<http://www15.ocn.ne.jp/~oyakodon/newversion/hydrobomb.htm>

■WTCを倒壊させたのは、イスラエルの水爆?

<http://www15.ocn.ne.jp/~oyakodon/newversion/futunokaiwa3.htm#06.05.25>

### ●ペンタゴン攻撃のカラクリ

ペンタゴンでは、建物の突入部分の損傷が小さすぎる、航空機の残骸がない、大型航空機は、地面からの風圧で浮かび上がってしまい、ペンタゴンの高さに突入できない、といった疑惑が当初から指摘されている。だが、大型の民間航空機の目撃証言はある。ペンタゴンに向かって真っ直ぐに突っ込んできたとき、建物の内部にいた軍人が、しっかりと目撃している。一方で、もっと小さな軍用機らしき飛行物体の目撃者もいる。飛来してきた方向にも2説ある。斜め5度から突入したというのが公式発表だ。確かに、その飛行経路にある街路灯がなぎ倒されている。なにかが、ペンタゴンに突入したことは間違いない。これらの不可思議を見事に説明してのけたのが、米国の民間研究者、ディック・イー

ストマン氏である。彼の説をまとめてみる。

「ボーイングの大型機とジェット戦闘機の類の軍用小型機の二機がペンタゴンに突入してきた。一機は真正面から降下してきた民間航空機。もう一機は左5度の角度で突入してきた遠隔操作の小型機。小型機は、ミサイルを発射して、ペンタゴンの側壁に穴を開け、その穴に自ら飛び込んだ。だから穴が小さい。民間航空機は、ペンタゴンの直上を通過してそのまま滑空し、背後を小型機突入の爆煙で隠されて、十秒後には、進行方向にあるレーガン空港に普通に着陸した。通常の空港トラフィックに紛れて、誰にも気づかれずに。」

地図を見ればわかるが、WTCを飛び越えて少し左右に旋回すれば、レーガン空港の滑走路に難なく滑り込むことが出来るのだ。これであれば、ふたつの背反する目撃証言があってもおかしくないし、誰も偽証などしていないことになる。だが、乗客はどうしたのか?乗客は最初から乗っていないか?と思われる。当日、77便の飛行計画はなかった。欠航便のはずだった。先に述べたように、この民間航空機は、空のまま、遠隔操作されていたものと見る。民間航空機の機上の操縦を無効にして、地上や空中から遠隔操作する技術がある。これは、ハイジャック対策でついふん前にアメリカで実用化された技術だ。この技術を持っている会社のC・E・Oが、ブッシュ政権に閣僚として参画していたドブ・ゼークハイムというシオニスト過激派ユダヤ人だ。ネオゴンの筆頭の一人だ。勿論、ロックフェラー・ユダヤ帝国の家臣団の一人であるが、この人物の技術があれば、ペンタゴンの大小二機の遠隔操作など、容易に実行できる。ハニ・ハンジュールなる、セスナの単独飛行すら許可されないアラブの飛行練習生に、こんな大それた離れ業をやらせる必要など、どこにもないのである。(口封じに抹殺されていないことを祈るばかりだ。)もう一つ、注目すべきは、民間航空機のほうは、エンジンを切って滑空してきたという証言があることだ。二機の爆音がしたのでは、まさしく、二機飛んできましたよと宣伝するようなものである。目撃者には、軍用機で飛ぶ小型機のほうは、なかなか目に入らないが、ゆったりと滑空して飛ぶ大型の民間機は、視界に大きく飛び込んでくる。だから、ペンタゴンになにか突っ込んで噴煙が上がれば、当然、さっきまで視界にあった民間航空機だと思ひこむ。おまけに、大型機の後ろ姿は、突入の爆炎に遮られて見えないうから、飛行を続けていたとしても、目撃されない。ペンタゴンを超えてレーガン空港に向かう間も、エンジンを切っているので、気づかれにくい。